

シセン 淄川炭のこと

淄川炭砒は中華民國の山東省内にある独乙国の權益炭砒であつたが才一次欧州戦争の結果連合軍が大勝利を収め終戦となつた。

当時我国も参加して山東省に進撃して此地方にあつた独乙軍の一切の權益を占領した戦後此炭砒は一たん中華民國に還付したが改めて日本と民国との合併事業として經營することに決定した民国側は鉍業權を代物出資として提供し我国側では山東鉍業株式会社を投資会社として東京に設立し此会社が現地合併会社である淄川炭砒有限公司の総資本金の半額を所有する方式をとつた此時に鈴木商店と三井物産は淄川炭の販売權を得ることを条件として山東鉍業会社の株式に兩社同額の投資を行つた淄川炭の販売区域は鈴木商店が阪神以西三井物産が京浜地方と名古屋以東とし販売数量は大体兩社同数とする鈴木商店は淄川炭の販売輸送納入一切を帝炭にまかせることにした又現地及青島港の積込荷扱は鈴木商店青島支店に於て取行ふことにした。

淄川炭は日本内地へはかつて輸入せられたことがなくて全く名染のない石炭であつた炭質は固定炭素分が高く輝発分が少なくいわゆる半無煙と稱する品種である従つて発熱量は七〇〇〇カロリーもあつて優良炭であるが火つきが悪い欠点があるので従来我国の石炭を使いなれておる工場では使用者が好まないののでボイラに特殊装置などを施したり送風機を特設したり色々やつてみたが成功がむづかしかつた然し遂に徳山海軍燃料廠を説きふせて艦船用のブリケット（大型）に使用することに成功した此方面に毎月数千屯を使用する事になつたので鈴木商店の淄川炭取扱は成功を収めることが出来た此ブリケットを使用すると全く黒煙を出さぬから戦艦としては全く好適するのであるそれ以後三千屯級の汽船を数隻雇用して青島徳山間の輸送に当てた三井に於ても販売には苦勞を重ね遂に鉄道省のブリケット用に納入することに

した以上色々苦勞はあつたがそれ以後は連年輸入を行い昭和二年鈴木商店が整理停止に到る迄青島鈴木商店支店と内地の帝炭は瀧川炭に關係しておつた次第である。